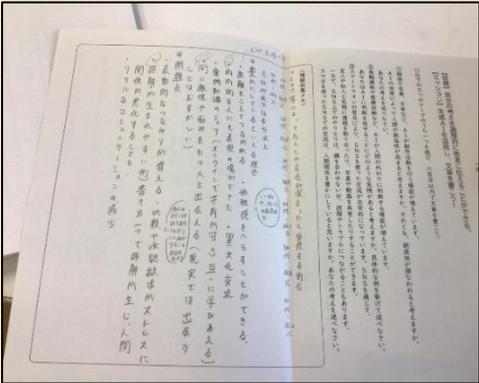
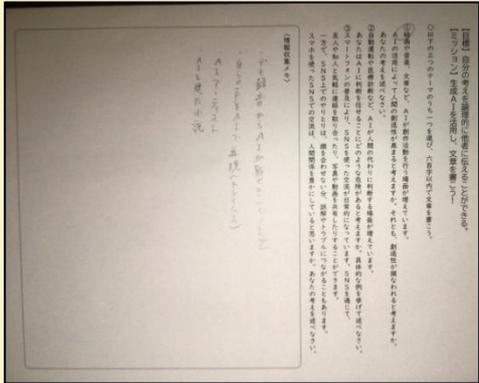
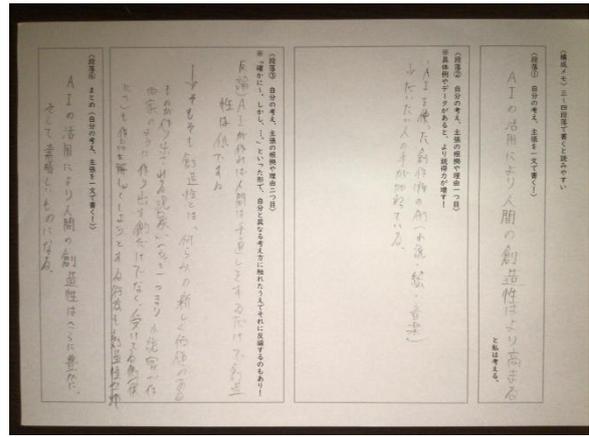
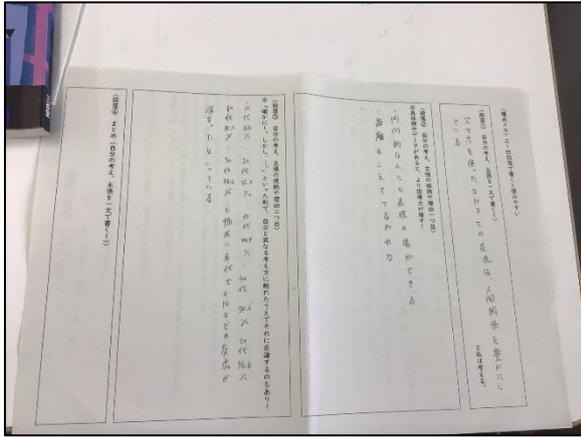


事例名			
生成 AI を利用して小論文を書く活動			
校種・学年	高等学校・1年		
教科・科目・単元・題材	国語科・現代の国語・書くこと		
学校名〈任意〉	京都府立亀岡高等学校	事例報告者氏名〈任意〉	遠藤 拓人
機能名 (アプリ名)	・ロイロノート(小論文の執筆・提出) ・生成 AI (Microsoft Copilot)		
ICT 活用のポイント			
<p>3つのテーマから1つを選び、600字程度の小論文を書く活動。生成 AI については、「自分が書いた文章を添削してもらおう」「書き出しや構成が思いつかないときに、案を提示してもらおう」「上手く文章にできない自分の考えを言語化してもらおう」など、使い方の例を提示した。また、あくまで生成 AI を使う目的は自分の文章のレベルアップであり、必ず生成 AI と対話をしたうえで書くこと(分からない言葉を提示されたら、「どういう意味?」と聞くなど)を伝えた。</p>			
活用場面			
<p>①現代の情報社会について3つのテーマから1つを選ぶ。          ②タブレット端末を用いて、テーマについて情報収集を行う。          ③②を踏まえて自分の考えを整理し、小論文の構成を考え「構成メモ」シートに書く。          ④生成 AI を適宜活用し、ロイロノートのカードに打ち込む形で、清書を行う。          生成 AI を用いた部分は、それが分かるよう、色を変えたり傍線を引いたりする。          ⑤提出箱を匿名で共有し、他の生徒の文章にコメントする。</p> <p>◆ ②の例</p>			
			
※③④は裏面に添付			
授業者のコメント・児童生徒の主な反応等			
<p>自分が文章を書くうえで苦手としている点を、生成 AI を活用して改善しようとしている生徒が多かった。例えば、言いたいことがまとまらず文章全体が長くなってしまう生徒は、生成 AI に内容を600字程度になるよう添削してもらい、そこから自分で推敲するという使い方をしていた。また、「一文が長くなってしまうので、そこを AI が短くまとめてくれたから、読みやすい文になった」という生徒もいた。AI を使ったうえで、どこまで自分の色を出せるかという点に、様々工夫をしていたようである。</p>			

◆ ③の例)



◆ ④の例)

私は、スマホを使ったSNSでの交流が人間関係を豊かにしていると考えます。

まず、SNSは地理的な距離を越えて人となることができ点が大きな特徴です。たとえば、他府県や海外に住んでいる人とも、リアルタイムでメッセージをやり取りしたり、写真や動画を共有したりすることができます。これにより、物理的な距離に関係なく、人間関係を維持し、より深めることが可能になります。

また、SNSは内向的な人や対面での会話が苦手な人にとっても、自分の気持ちや意見を表現しやすい場となっています。文章やスタンプ、画像など、自分に合った方法で思いを伝えることができるため、自己表現のハードルが低くなっているのです。

さらに、現実の生活の中ではなかなか出会えないような、共通の趣味や価値観、悩みを持つ人々ともつながることができるのはSNSならではの利点です。特定の話題に関心を持つコミュニティに参加することで、共感し合い、励まし合う関係を築くことができます。こうした繋がりは、孤独感の軽減や精神的な支えにもつながっています。

実際、スマホを通じて友人との交流が深まったと感じている人は多く、特に若い世代でその傾向が顕著に見られます。調査によると、10代では66.5%、20代では55.9%が「交流が深まった」と実感しています。30代以下の層でその割合が高く、40代では38.2%、50代で36.8%、60代で35.2%、70代でも38.7%と、幅広い年代でSNSによる人間関係の深化が見られるのです。このようなデータからも、SNSは現代の人間関係を豊かにしていると言えます。

もちろん、SNSにはトラブルや依存のリスクも存在しますが、適切な使い方をすれば、人と人との関係を豊かにする大きな力を持っているといえるでしょう。現代社会において、SNSは新たな形のコミュニケーション手段として、ますます重要性を増しています。

**AIと人間の創造性**

私は、AIの活用によって人間の創造性はむしろ高まると考えています。

AIによる創作活動には、小説・音楽・絵画などがあり、芥川賞作家の九段理江さんも執筆にAIを活用したことで話題になりました。画像生成AIや作曲AIの登場により、誰でも創作に挑戦できる時代になっています。

しかし、これらの作品はすべて「人間の指示」によって生まれています。AIは自発的に創作するわけではなく、「どんな作品を作りたいか」というゴールを人間が定める必要があります。仮に将来、AIが簡単な指示だけで高品質な作品を生み出せるようになったとしても、人間の創造性が不要になるわけではありません。

また、創造性とは何か新しく価値のあるものを生み出すことであり、作品を受け取る側が解釈を持つことも含まれます。例えば小説を読んで作者の意図を考えたり、絵画を見て表現を読み取ったりすることも創造的な行為だと言えます。AIによって今までよりも創作物が増えれば、私たちがそれらの作品に触れる機会も増え、受け手としての創造性も育てられていくでしょう。

AIの進化は止まりませんが、それによって人間の創造性が失われることはない私は考えます。むしろ、AIとともに人間の創造性はさらに進化していくのです。

自分の文をAIに推敲&600字程度にまとめてもらい、それをさらに自分で添削しました。